



大修館書店

<https://www.taishukan.co.jp>

教授用資料

# 中学校学習指導要領 新旧対照表

新旧対照表【前文及び総則】…01

新旧対照表【保健体育】…19

運動領域，体育分野の系統表…45

保健領域，保健分野の系統表…50

\*平成29（2017）年3月31日に文部科学省が公示した学習指導要領や，関係資料をもとに作成しました。

# 中学校学習指導要領新旧対照表【前文及び総則】

現 行（平成２０年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成２９年告示）	備 考
(新設)	<p style="text-align: center;">前 文</p> <p>教育は、教育基本法第１条に定めるとおり、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期すという目的のもと、同法第２条に掲げる次の目標を達成するよう行われなければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。</li> <li>個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。</li> <li>正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。</li> <li>生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</li> <li>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和発展に寄与する態度を養うこと。</li> </ol> <p>これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ</p>	<p>《新設》</p> <p>新たに「前文」が設けられ、育基本法を引用しながら教育の目的や目標が明記された。また、「社会に開かれた教育課程」の重要性和学習指導要領の意義が示された。</p>

計画的に組み立てた教育課程である。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

学習指導要領とは、こうした理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めるものである。学習指導要領が果たす役割の一つは、公の性質を有する学校における教育水準を全国的に確保することである。また、各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね、長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら、生徒や地域の現状や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である。

生徒が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から生徒や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育及び小学校教育の基礎の上に、高等学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、生徒の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに中学校学習指導要領を定める。

## 第1章 総 則

### 第1 教育課程編成の一般方針

- 1 各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、生徒の人間と

## 第1章 総 則

### 第1 中学校教育の基本と教育課程の役割

- 1 各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、生徒の人間と

《変更》

第1章第1において、教育課程編成の原則、育成を目指す資質・能力、

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>して調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階や特性等を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。</p> <p>学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。</p> <p>2 学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。</p> <p>道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共に</p>	<p>して調和のとれた育成を目指し、生徒の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。</p> <p>2 学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、<u>第3の1に示す主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、次の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、生徒に生きる力を育むことを目指すものとする。</u></p> <p>(1) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし<u>多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。</u>その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動など、<u>学習の基盤をつくる活動を充実する</u>とともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮すること。</p> <p><u>(2) 道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること。</u></p> <p>学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと。</p> <p>道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共に</p>	<p>カリキュラム・マネジメントの充実など、学習指導要領全体の方向性が示された。</p> <p>《変更》 改訂のキーワードである「主体的・対話的で深い学び」が登場する。</p> <p>《新設》 「豊かな心」「創造性」を養う上では、道徳教育に加えて、「体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等」も必要であることが示された。</p>

りよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

道徳教育を進めるに当たっては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意しなければならない。

- 3 学校における体育・健康に関する指導は、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科の時間はもとより、技術・家庭科、特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めることとする。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮しなければならない。

(新設)

りよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。

道徳教育を進めるに当たっては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意すること。

- (3) 学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、技術・家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。

- 3 2の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される生徒に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、総合的な学習の時間

《新設》

育成を目指す資質・能力が(1)～(3)の三つの柱で示された。

現 行（平成２０年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成２９年告示）	備 考
(新設)	<p>及び特別活動（以下「各教科等」という。ただし，第２の３の（２）のア及びウにおいて，特別活動については学級活動（学校給食に係るものを除く。）に限る。）の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら，教育活動の充実を図るものとする。その際，生徒の発達の段階や特性等を踏まえつつ，次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。</p> <p>(1) 知識及び技能が習得されるようにすること。</p> <p>(2) 思考力，判断力，表現力等を育成すること。</p> <p>(3) 学びに向かう力，人間性等を涵養すること。</p> <p>４ 各学校においては，生徒や学校，地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと，教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと，教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して，教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。</p>	<p>《新設》</p> <p>改訂のキーワードである「カリキュラム・マネジメント」について，以下の３つの視点が示された。</p> <p>①教科横断的な視点での教育内容の編成。</p> <p>②教育課程の実施と評価のPDCAサイクルの確立。</p> <p>③人的・物的な体制の確保。</p>
(新設)	<p>第２ 教育課程の編成</p> <p>１ 各学校の教育目標と教育課程の編成</p> <p>教育課程の編成に当たっては，学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ，各学校の教育目標を明確にするとともに，教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際，第４章総合的な学習の時間の第２の１に基づき定められる目標との関連を図るものとする。</p>	<p>《新設》</p> <p>「社会に開かれた教育課程」の趣旨を踏まえて，教育課程編成の方針について家庭や地域との共有に努めていくことが示された。</p>

(新設)

## 第2 内容等の取扱いに関する共通的事項

- 1 第2章以下に示す各教科、道徳科及び特別活動の内容に関する事項は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならない。
- 2 学校において特に必要がある場合には、第2章以下に示していない内容を加えて指導することができる。また、第2章以下に示す内容の取扱いのうち内容の範囲や程度等を示す事項は、すべての生徒に対して指導するものとする内容の範囲や程度等を示したものであり、学校において特に必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができる。ただし、これらの場合には、第2章以下に示す各教科、道徳科及び特別活動並びに各学年、各分野又は各言語の目標や内容の趣旨を逸脱したり、生徒の負担過重となったりすることのないようにしなければならない。

## 2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- (1) 各学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。
- (2) 各学校においては、生徒や学校、地域の実態及び生徒の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

## 3 教育課程の編成における共通的事項

### (1) 内容等の取扱い

- ア 第2章以下に示す各教科、道徳科及び特別活動の内容に関する事項は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならない。
- イ 学校において特に必要がある場合には、第2章以下に示していない内容を加えて指導することができる。また、第2章以下に示す内容の取扱いのうち内容の範囲や程度等を示す事項は、全ての生徒に対して指導するものとする内容の範囲や程度等を示したものであり、学校において特に必要がある場合には、この事項にかかわらず加えて指導することができる。ただし、これらの場合には、第2章以下に示す各教科、道徳科及び特別活動の目標や内容の趣旨を逸脱したり、生徒の負担過重となったりすることのないようにしなければならない。

《新設》

教科横断的に資質・能力を育成していくことが強調された。

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>3 第2章以下に示す各教科、道徳科及び特別活動並びに各学年、各分野又は各言語の内容に掲げる事項の順序は、特に示す場合を除き、指導の順序を示すものではないので、学校においては、その取扱いについて適切な工夫を加えるものとする。</p> <p>4 学校において2以上の学年の生徒で編制する学級について特に必要がある場合には、各教科の目標の達成に支障のない範囲内で、各教科の目標及び内容について学年別の順序によらないことができる。</p> <p>5 各学校においては、選択教科を開設し、生徒に履修させることができる。その場合にあっては、地域や学校、生徒の実態を考慮し、すべての生徒に指導すべき内容との関連を図りつつ、選択教科の授業時数及び内容を適切に定め選択教科の指導計画を作成するものとする。</p> <p>6 選択教科の内容については、課題学習、補充的な学習や発展的な学習など、生徒の特性等に応じた多様な学習活動が行えるよう各学校において適切に定めるものとする。その際、生徒の負担過重となることのないようにしなければならない。</p> <p>7 各学校においては、第2章に示す各教科を選択教科として設けることができるほか、地域や学校、生徒の実態を考慮して、特に必要がある場合には、その他特に必要な教科を選択教科として設けることができる。その他特に必要な教科の名称、目標、内容などについては、各学校が適切に定めるものとする。</p> <p>8 道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容とする。</p> <p>第3 授業時数等の取扱い</p>	<p>ウ 第2章以下に示す各教科、道徳科及び特別活動の内容に掲げる事項の順序は、特に示す場合を除き、指導の順序を示すものではないので、学校においては、その取扱いについて適切な工夫を加えるものとする。</p> <p>エ 学校において2以上の学年の生徒で編制する学級について特に必要がある場合には、各教科の目標の達成に支障のない範囲内で、各教科の目標及び内容について学年別の順序によらないことができる。</p> <p>オ 各学校においては、生徒や学校、地域の実態を考慮して、<u>生徒の特性等に応じた多様な学習活動が行えるよう</u>、第2章に示す各教科や、特に必要な教科を、選択教科として開設し生徒に履修させることができる。その場合にあっては、全ての生徒に指導すべき内容との関連を図りつつ、選択教科の授業時数及び内容を適切に定め選択教科の指導計画を作成し、生徒の負担加重となることのないようにしなければならない。また、特に必要な教科の名称、目標、内容などについては、各学校が適切に定めるものとする。</p> <p>カ 道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容とし、<u>その実施に当たっては、第6に示す道徳教育に関する配慮事項を踏まえるものとする。</u></p> <p>(2) 授業時数等の取扱い</p>	



1 各教科、道徳科、総合的な学習の時間及び特別活動（以下「各教科等」という。ただし、1及び3において、特別活動については学級活動（学校給食に係るものを除く。）に限る。）の授業は、年間35週以上にわたって行うよう計画し、週当たりの授業時数が生徒の負担過重にならないようにするものとする。ただし、各教科等（特別活動を除く。）や学習活動の特質に応じ効果的な場合には、夏季、冬季、学年末等の休業日の期間に授業日を設定する場合を含め、これらの授業を特定の期間に行うことができる。なお、給食、休憩などの時間については、学校において工夫を加え、適切に定めるものとする。

2 特別活動の授業のうち、生徒会活動及び学校行事については、それらの内容に応じ、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする。

3 各教科等のそれぞれの授業の1単位時間は、各学校において、各教科等の年間授業時数を確保しつつ、生徒の発達の段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して適切に定めるものとする。なお、10分間程度の短い時間を単位として特定の教科の指導を行う場合において、当該教科を担当する教師がその指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任をもって行う体制が整備されているときは、その時間を当該教科の年間授業時数に含めることができる。

ア 各教科等の授業は、年間35週以上にわたって行うよう計画し、週当たりの授業時数が生徒の負担過重にならないようにするものとする。ただし、各教科等や学習活動の特質に応じ効果的な場合には、夏季、冬季、学年末等の休業日の期間に授業日を設定する場合を含め、これらの授業を特定の期間に行うことができる。

イ 特別活動の授業のうち、生徒会活動及び学校行事については、それらの内容に応じ、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする。

ウ 各学校の時間割については、次の事項を踏まえ適切に編成するものとする。

(ア) 各教科等のそれぞれの授業の1単位時間は、各学校において、各教科等の年間授業時数を確保しつつ、生徒の発達の段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して適切に定めること。

(イ) 各教科等の特質に応じ、10分から15分程度の短い時間を活用して特定の教科等の指導を行う場合において、当該教科等を担当する教師が、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した中で、その指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任を持って行う体制が整備されているときは、その時間を当該教科等の年間授業時数に含めることができること。

(ウ) 給食、休憩などの時間については、各学校において工夫を加え、適切に定めること。

《変更》

現行の「給食、休憩などの時間」については、ウの（ウ）において規定された。

《変更》

授業時数に含めて行う短時間学習の留意事項について明記された。

《変更》

現行の第3の1に示されていた「なお書き」がこちらに移動した

現 行（平成２０年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成２９年告示）	備 考
<p>４ 各学校においては、地域や学校及び生徒の実態、各教科等や学習活動の特質等に応じて、創意工夫を生かし時間割を弾力的に編成することができる。</p> <p>５ 総合的な学習の時間における学習活動により、特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な学習の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えることができる。</p> <p>第４ 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項</p> <p>１ 各学校においては、次の事項に配慮しながら、学校の創意工夫を生かし、全体として、調和のとれた具体的な指導計画を作成するものとする。</p> <p>（２）各教科の各学年、各分野又は各言語の指導内容については、そのまとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加えるなど、効果的な指導ができるようにすること。</p> <p>（１）各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること。</p> <p>（新設）</p>	<p>（エ）各学校において、生徒や学校、地域の実態、各教科等や学習活動の特質等に応じて、創意工夫を生かした時間割を弾力的に編成できること。</p> <p>エ 総合的な学習の時間における学習活動により、特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な学習の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えることができる。</p> <p>（３）指導計画の作成等に当たっての配慮事項</p> <p>各学校においては次の事項に配慮しながら、学校の創意工夫を生かし、全体として、調和のとれた具体的な指導計画を作成するものとする。</p> <p>ア 各教科等の指導内容については、<u>（１）のアを踏まえつつ、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、そのまとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加え、第３の１に示す主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導ができるようにすること。</u></p> <p>イ 各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること。</p> <p>４ 学校段階間の接続</p> <p>教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階間の接続を図るものとする。</p> <p>（１）小学校学習指導要領を踏まえ、小学校教育までの学習の成果が中学校教育に円滑に接続され、義務教育段階の終わりまでに育成することを目指す資質・能力を、生徒が確実に身に付けることができるよう工夫すること。特に、義務教育学校、小学校連携型中学校及び小学校併設型中学校においては、義務教育９年間を見通した計画的かつ継続的な教育課程を編成すること。</p>	<p>《変更》</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導を行うことが示された。</p> <p>《新設》</p> <p>小中９年間、あるいは中高６年間を見通した教育課程を編成し、各学校段階の円滑な接続を図ることが明記された。</p>

(2) 高等学校学習指導要領を踏まえ、高等学校教育及びその後の教育との円滑な接続が可能となるよう工夫すること。特に、中等教育学校、連携型中学校及び併設型中学校においては、中等教育6年間を見通した計画的かつ継続的な教育課程を編成すること。

### 第3 教育課程の実施と学習評価

#### 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 第1の3の(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、生徒が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

(2) 第2の2の(1)に示す言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて、生徒の言語活動を充実すること。あわせて、(7)に示すとおり読書活動を充実すること。

2 各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(新設)

(1) 各教科等の指導に当たっては、生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実

《新設》

第1の3の(1)から(3)まで、すなわち3つの資質・能力の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいくことが明記された。

《変更》

言語能力の育成を図る活動の一つ通して、「読書活動」が示された。

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>すること。</p> <p>(10) 各教科等の指導に当たっては、生徒が情報モラルを身に付け、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるようにするための学習活動を充実するとともに、これらの情報手段に加え視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。</p> <p>(6) 各教科等の指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。</p> <p>(新設)</p> <p>(2) 各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、生徒の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。</p> <p>(11) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。</p>	<p>(3) <u>第2の2の(1)に示す情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また、各種の統計資料や新聞、</u>視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。</p> <p>(4) 生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。</p> <p>(5) 生徒が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的に実施できるよう工夫すること。</p> <p>(6) <u>生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、</u>生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。</p> <p>(7) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、<u>生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。また、地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。</u></p> <p>2 学習評価の充実</p> <p>学習評価の実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p>	<p>《変更》</p> <p>ICT 環境の整備について明記された。</p> <p>《新設》</p> <p>「体験活動の重視」について、「社会に開かれた教育課程」の趣旨を踏まえて、家庭や地域社会と連携することが示された。</p> <p>《変更》</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、学校図書館の利用に加えて、地域の施設を積極的に活用していく方針が示された。</p>

<p>(12) 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること。</p> <p>(新設)</p> <p>(5) 生徒が学校や学級での生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、ガイダンスの機能の充実を図ること。</p> <p>(3) 教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深め、生徒が自主的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことができるよう、生徒指導の充実を図ること。</p> <p>(新設)</p>	<p>(1) 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。</p> <p>(2) 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。</p> <p>第4 生徒の発達の支援</p> <p>1 生徒の発達を支える指導の充実</p> <p>教育課程の編成及び実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。また、主に集団の場面に必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により、生徒の発達を支援すること。</p> <p>(2) 生徒が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら、生徒指導の充実を図ること。</p> <p>(3) 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる</p>	<p>《新設》</p> <p>学習評価について、学年間や学校段階間の円滑な接続に取り組むことが示された。</p> <p>《新設》</p> <p>「学級経営の充実」が新たに明記された。また、集団の指導や援助を行うガイダンスに加えて、生徒一人一人が抱える課題に対して個別に対応するカウンセリングの双方により、生徒の発達を支援することが示された。</p> <p>《変更》</p> <p>学級経営と密接に関わる生徒指導の充実について示された。</p> <p>《新設》</p> <p>特別活動を要としたキャリア教育</p>
---	--	--

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>(4) 生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行うこと。</p> <p>(7) 各教科等の指導に当たっては、生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学校や生徒の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導、教師間の協力的な指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ること。</p> <p>(8) 障害のある生徒などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、例えば指導についての計画又は家庭や医療、福祉等の業務を行う関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成することなどにより、個々の生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。特に、特別支援学級又は通級による指導については、教師間の連携に努め、効果的な指導を行うこと。</p>	<p>資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。</p> <p>(4) 生徒が、<u>基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、生徒や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図ること。その際、第3の1の(3)に示す情報手段や教材・教具の活用を図ること。</u></p> <p>2 特別な配慮を必要とする生徒への指導</p> <p>(1) 障害のある生徒などへの指導</p> <p>ア 障害のある生徒などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の生徒の障害の状況等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。</p> <p>イ 特別支援学級において実施する特別的教育課程については、次のとおり編成するものとする。</p> <p>(ア) 障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れること。</p> <p>(イ) 生徒の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替</p>	<p>の充実について、新しく示された。</p> <p>《新設》</p> <p>「障害のある生徒などへの指導」について、特別支援学校等の助言や援助を活用しながら指導内容や指導方法を工夫すること、また、教育課程編成の際の留意点がア～エとして具体的に示された。</p>

(9) 海外から帰国した生徒などについては、学校生活への適応を図るとともに、外国における生活経験を生かすなどの適切な指導を行うこと。

えたり、各教科を、知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えたりするなどして、実態に応じた教育課程を編成すること。

ウ 障害のある生徒に対して、通級による指導を行い、特別の教育課程を編成する場合には、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとする。その際、効果的な指導が行われるよう、各教科等と通級による指導との関連を図るなど、教師間の連携に努めるものとする。

エ 障害のある生徒などについては、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で生徒への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに、各教科等の指導に当たって、個々の生徒の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。特に、特別支援学級に在籍する生徒や通級による指導を受ける生徒については、個々の生徒の障害の状況等の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用するものとする。

(2) 海外から帰国した生徒などの学校生活への適応や、日本語の習得に困難のある生徒に対する日本語指導

ア 海外から帰国した生徒などについては、学校生活への適応を図るとともに、外国における生活経験を生かすなどの適切な指導を行うものとする。

イ 日本語の習得に困難のある生徒については、個々の生徒の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。特に、通級による日本語指導については、教師間の連携に努め、指導につ

《新設》

「日本語の習得に困難のある生徒に対する日本語指導」が新設され、組織的・計画的な日本語指導の必要性が明記された。

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
(新設)	<p>いての計画を個別に作成することなどにより、効果的な指導に努めるものとする。</p> <p>(3) 不登校生徒への配慮</p> <p>ア 不登校生徒については、保護者や関係機関と連携を図り、心理や福祉の専門家の助言又は援助を得ながら、社会的自立を目指す観点から、個々の生徒の実態に応じた情報の提供その他の必要な支援を行うものとする。</p> <p>イ 相当の期間中学校を欠席し引き続き欠席すると認められる生徒を対象として、文部科学大臣が認める特別の教育課程を編成する場合には、生徒の実態に配慮した教育課程を編成するとともに、個別学習やグループ別学習など指導方法や指導体制の工夫改善に努めるものとする。</p> <p>(4) 学齢期を経過した者への配慮</p> <p>ア 夜間その他の特別の時間に授業を行う課程において学齢を経過した者を対象として特別の教育課程を編成する場合には、学齢を経過した者の年齢、経験又は勤労状況その他の実情を踏まえ、中学校教育の目的及び目標並びに第2章以下に示す各教科等の目標に照らして、中学校教育を通じて育成を目指す資質・能力を身に付けることができるようにするものとする。</p> <p>イ 学齢を経過した者を教育する場合には、個別学習やグループ別学習など指導方法や指導体制の工夫改善に努めるものとする。</p> <p>第5 学校運営上の留意事項</p> <p>1 教育課程の改善と学校評価、教育課程外の活動との連携等</p> <p>ア 各学校においては、校長の方針の下に、校務分掌に</p>	<p>《新設》</p> <p>「不登校生徒への配慮」として、不登校の生徒についての記載が今回の改訂で初めて登場した。</p> <p>《新設》</p> <p>夜間中学の生徒等の「学齢期を経過した者への配慮」について、今回の改訂で新たに示された。</p> <p>《新設》</p>



(新設)

(13) 生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすること。

(14) 学校がその目的を達成するため、地域や学校の実態等に応じ、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深めること。また、中学校間や小学校、高等学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図

基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努めるものとする。また、各学校が行う学校評価については、教育課程の編成、実施、改善が教育活動や学校運営の中核となることを踏まえつつ、カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意するものとする。

イ 教育課程の編成及び実施に当たっては、学校保健計画、学校安全計画、食に関する指導の全体計画、いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針など、各分野における学校の全体計画等と関連付けながら、効果的な指導が行われるように留意するものとする。

ウ 教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意するものとする。特に、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動についてはスポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制を整えられるようにするものとする。

## 2 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

教育課程の編成及び実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ア 学校がその目的を達成するため、学校や地域の実態等に応じ、教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、家庭や地域社会との連携及び協働を深めること。また、

「カリキュラム・マネジメント」は、校長を中心としつつ、全ての教職員が参加することによって取り組んでいくことが示された。

《新設》

食に関する指導やいじめ防止等、各分野の全体計画と関連を図って効果的な指導に取り組むことが示された。

《変更》

「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、地域社会との連携が引き続き重視された。また、「将来にわたる持続可能性を踏まえた部活動の在り方」が求められていることを背景に、その運営体制を整備していくことが示された。

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習や高齢者などとの交流の機会を設けること。</p> <p>3 道徳教育を進めるに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 各学校においては、第1の2に示す道徳教育の目標を踏まえ、道徳教育の全体計画を作成し、校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開すること。なお、道徳教育の全体計画の作成に当たっては、生徒、学校及び地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、道徳科の指導方針、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容との関連を踏まえた各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと。</p> <p>(2) 各学校においては、生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること。その際、小学校における道徳教育の指導内容を更に発展させ、自立心や自律性を高め、規律ある生活をする心、生命を尊重する心や自らの弱さを克服して気高く生きようとする心を育てること、法やきまりの意義に関する理解を深めること、自らの将来の生き方を考え主体的に社会の形成に参画する意欲と態度を養うこと、伝統と文化を尊重し、それら</p>	<p>高齢者や異年齢の子供など、<u>地域における世代を越えた交流の機会を設けること。</u></p> <p>イ 他の中学校や、<u>幼稚園、認定こども園、保育所、小学校、高等学校、特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むよう努めること。</u></p> <p>第6 道徳教育に関する配慮事項</p> <p>道徳教育を進めるに当たっては、<u>道徳教育の特質を踏まえ、前項までに示す事項に加え、次の事項に配慮するものとする。</u></p> <p>1 各学校においては、第1の2の(2)に示す道徳教育の目標を踏まえ、道徳教育の全体計画を作成し、校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開すること。なお、道徳教育の全体計画の作成に当たっては、生徒や学校、地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、道徳科の指導方針、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容との関連を踏まえた各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと。</p> <p>2 各学校においては、生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること。その際、小学校における道徳教育の指導内容を更に発展させ、自立心や自律性を高め、規律ある生活をする心、生命を尊重する心や自らの弱さを克服して気高く生きようとする心を育てること、法やきまりの意義に関する理解を深めること、自らの将来の生き方を考え主体的に社会の形成に参画する意欲と態度を養うこと、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する</p>	

を育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重すること、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けることに留意すること。

- (3) 学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実すること。また、道徳教育の指導内容が、生徒の日常生活に生かされるようにすること。その際、いじめの防止や安全の確保等にも資することとなるよう留意すること。
- (4) 学校の道徳教育の全体計画や道徳教育に関する諸活動などの情報を積極的に公表したり、道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。

とともに、他国を尊重すること、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けることに留意すること。

- 3 学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実すること。また、道徳教育の指導内容が、生徒の日常生活に生かされるようにすること。その際、いじめの防止や安全の確保等にも資することとなるよう留意すること。
- 4 学校の道徳教育の全体計画や道徳教育に関する諸活動などの情報を積極的に公表したり、道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。

# 中学校学習指導要領新旧対照表【保健体育】

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>第7節 保健体育</p> <p>第1 目 標</p> <p>心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。</p> <p>（新設）</p> <p>（新設）</p> <p>（新設）</p> <p>第2 各学年の目標及び内容 〔体育分野 第1学年及び第2学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践することができるようにする。</p> <p>（新設）</p> <p>(3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り</p>	<p>第7節 保健体育</p> <p>第1 目 標</p> <p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p> <p>第2 各学年の目標及び内容 〔体育分野 第1学年及び第2学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、<u>運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</u></p> <p>(2) 運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り</p>	<p>《変更》</p> <p>教科の目標の示し方が改善され、前文では保健体育科の大きな目的である「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する」ことが示された。</p> <p>《新設》</p> <p>目標の後段では、保健体育科で育成すべき資質・能力として、(1) 知識及び技能、(2) 思考力、判断力、表現力等、(3) 学びに向かう力、人間性等の3つ柱で整理して示された。</p> <p>《変更・新設》</p> <p>教科の目標を受けて、体育分野の目標と内容の示し方についても、現行の「技能」「態度」「知識、思考・判断」から変更され、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3本柱で具体的に示された。</p>

組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

## 2 内 容

### A 体づくり運動

(新設)

(1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようにする。

(3) 体づくり運動の意義と行い方、運動の計画の立て方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

ア 体ほぐしの運動では、心と体の関係に気付き、体の調子を整え、仲間と交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うこと。

イ 体力を高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせ運動の計画に取り組むこと。

(3) 体づくり運動の意義と行い方、運動の計画の立て方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(再掲)

(2) 体づくり運動に積極的に取り組むとともに、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

### B 器械運動

(新設)

組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。

## 2 内 容

### A 体づくり運動

体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせること。

ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合うこと。

イ 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせること。

(2) 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

(3) 体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとすること、話合いに参加しようとすることなどや、健康・安全に気を配ること。

### B 器械運動

器械運動について、次の事項を身に付けることができる

《変更》

現行の「運動の計画の立て方」は削除され、新たに「体の動きを高める方法」が示された。

《変更》

現行の「体の調子を整え」「仲間と交流する」「律動的な運動」は削除され、新たに「心身の状態」「仲間と積極的に関わり合う」が示された。

《変更》

現行の「体力を高める運動」は、「体の動きを高める運動」に変更された。

《変更》

現行の「課題に応じた」が「自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて」に変更され、新たに「自己や仲間の考えたことを他者に伝えること」が示された。

《変更》

現行の「分担した役割を果たそう

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。</p> <p>(3) 器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。</p> <p>ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。</p> <p>イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。</p> <p>ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。</p> <p>エ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと。</p> <p>(3) 器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。（再掲）</p> <p>(2) 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。</p> <p>C 陸上競技 （新設）</p> <p>(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身に付ける</p>	<p>よう指導する。</p> <p>(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うこと。</p> <p>ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。</p> <p>イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。</p> <p>ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。</p> <p>エ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと。</p> <p>(2) <u>技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</u></p> <p>(3) 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、<u>仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする</u>ことなどや、健康・安全に気を配ること。</p> <p>C 陸上競技</p> <p>陸上競技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行</p>	<p>とすること」が「仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、話合いに参加しようとする」に変更された。</p> <p>《変更》</p> <p>現行の「課題に応じた」が「技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて」に変更され、新たに「自己の考えたことを他者に伝えること」が示された。</p> <p>《変更》</p> <p>現行の「分担した役割を果たそうとする」が「仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする」に変更された。</p>

ことができるようにする。

- (3) 陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

ア 短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ること、長距離走では、ペースを守り一定の距離を走ること、ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すこと。

イ 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶこと。

- (3) 陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(再掲)

- (2) 陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

## D 水 泳

(新設)

- (1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、泳法を身に付けることができるようにする。

- (3) 水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

ア クロールでは、手と足、呼吸のバランスをとり速く泳ぐこと。

イ 平泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり長く泳

い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けること。

ア 短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受渡しでタイミングを合わせること、長距離走では、ペースを守って走ること、ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すこと。

イ 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶこと。

- (2) 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。

- (3) 陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることなどや、健康・安全に気を配ること。

## D 水 泳

水泳について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、泳法を身に付けること。

ア クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぐこと。

イ 平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり

《追記》

バトンパスの技能が新たに示された。

《変更》

現行の「課題に応じた」が「動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて」に変更され、新たに「自己の考えたことを他者に伝えること」が示された。

《変更》

「一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする」という共生の視点が示された。

《変更》

現行のア～エの「手と足」が「手と足の動き」に変更された。

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>ぐこと。</p> <p>ウ 背泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。</p> <p>エ バタフライでは、手と足、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。</p> <p>(3) 水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。（再掲）</p> <p>(2) 水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、水泳の事故防止に関する心得など健康・安全に気を配ることができるようにする。</p> <p>E 球 技 （新設）</p> <p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。</p> <p>(3) 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。</p> <p>ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開すること。</p> <p>イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。</p> <p>ウ ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開すること。</p>	<p>長く泳ぐこと。</p> <p>ウ 背泳ぎでは、手と足の<u>動き</u>、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。</p> <p>エ バタフライでは、手と足の<u>動き</u>、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。</p> <p>(2) <u>泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</u></p> <p>(3) 水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、<u>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする</u>ことなどや、水泳の事故防止に関する心得を<u>遵守する</u>など健康・安全に気を配ること。</p> <p>E 球 技</p> <p>球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。</p> <p>ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。</p> <p>イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。</p> <p>ウ ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすること。</p>	<p>《変更》</p> <p>現行の「課題に応じた」が「泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて」に変更され、新たに「自己の考えたことを他者に伝えること」が示された。</p> <p>《変更》</p> <p>「一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする」という共生の視点が示された。</p>



(3) 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(再掲)

(2) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

## F 武道

(新設)

(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。

(3) 武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

ア 柔道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開すること。

イ 剣道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開すること。

ウ 相撲では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、押ししたり寄ったりするなどの攻防を展開すること。

(3) 武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(再掲)

(2) 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を

(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとするなど、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。

## F 武道

武道について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開すること。

ア 柔道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの簡易な攻防をすること。

イ 剣道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をすること。

ウ 相撲では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、押ししたり寄ったりするなどの簡易な攻防をすること。

(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。

(3) 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を

《変更》

現行の「課題に応じた」が「攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて」に変更され、新たに「自己や仲間の考えたことを他者に伝えること」が示された。

《変更》  
現行の「分担した役割を果たそうとすること」から「一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとするなど、仲間の学習を援助しようとするなど」に変更された。

《変更》  
「簡易な攻防」をすることが明記された。

《変更》  
現行の「課題に応じた」が「攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて」に変更され、新たに「自己の考えたことを他者に伝えること」が示された。

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>果たそうとすることなどや、<u>禁じ技を用いない</u>など健康・安全に気を配ることができるようにする。</p> <p>G ダンス （新設）</p> <p>(1) 次の運動について、<u>感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージをとらえた表現や踊りを通して交流ができるようにする。</u></p> <p>(3) ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。</p> <p>ア 創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ること。</p> <p>イ フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ること。</p> <p>ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ること。</p> <p>(3) ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。（再掲）</p> <p>(2) ダンスに積極的に取り組むとともに、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。</p> <p>H 体育理論 （新設）</p>	<p>果たそうとすること、<u>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めよう</u>とすることなどや、<u>禁じ技を用いない</u>など健康・安全に気を配ること。</p> <p>G ダンス ダンスについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) 次の運動について、<u>感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通して交流をすること。</u></p> <p>ア 創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ること。</p> <p>イ フォークダンスでは、<u>日本の民踊や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ること。</u></p> <p>ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ること。</p> <p>(2) <u>表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</u></p> <p>(3) ダンスに積極的に取り組むとともに、<u>仲間の学習を援助しよう</u>とすること、<u>交流などの話合いに参加しよう</u>とすること、<u>一人一人の違いに応じた表現や役割を認めよう</u>とすることなどや、健康・安全に気を配ること。</p> <p>H 体育理論 (1) 運動やスポーツが多様であることについて、課題を発</p>	<p>《変更》 「一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めよう</p> <p>とすること」という共生の視点が示された。</p> <p>《追記》 「日本の民謡や外国の踊り」が新たに示された。</p> <p>《変更》 現行の「課題に応じた」が「表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて」に変更され、新たに「自己や仲間の考えたことを他者に伝えること」が示された。</p> <p>《変更》 現行の「よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすること」から「仲間の学習を援助しよう</p> <p>とすること、交流などの話合いに参加しよう</p> <p>とすること、</p>

<p>(1) 運動やスポーツが多様であることについて理解できるようにする。</p> <p>ア 運動やスポーツは、体を動かしたり、健康を維持したりするなどの必要性や、競技に応じた力を試すなどの楽しさから生みだされ発展してきたこと。</p> <p>イ 運動やスポーツには、行うこと、見ること、支えることなどの多様なかかわり方があること。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(2) 運動やスポーツの意義や効果などについて理解できるようにする。</p> <p>ア 運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果が期待できること。</p> <p>イ 運動やスポーツは、ルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を</p>	<p>見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 運動やスポーツが多様であることについて理解すること。</p> <p>(ア) 運動やスポーツは、体を動かしたり健康を維持したりするなどの必要性<u>及び競い合うことや課題を達成すること</u>などの楽しさから生みだされ発展してきたこと。</p> <p>(イ) 運動やスポーツには、行うこと、見ること、支えること<u>及び知ること</u>などの多様な関わり方があること。</p> <p>(ウ) 世代や機会に応じて、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには、自己に適した多様な楽しみ方を見付けたり、工夫したりすることが大切であること。</p> <p>イ 運動やスポーツが多様であることについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。</p> <p>ウ 運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組むこと。</p> <p>(2) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解すること。</p> <p>(ア) 運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果及びルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できること。</p>	<p>一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとする</p> <p>こと」に変更された。</p> <p>《変更》 競走や達成などの多様な楽しさが示された。</p> <p>《変更》 運動やスポーツへの関わり方として、「知ること」が加わった。</p> <p>《新設》 「運動やスポーツの多様な楽しみ方」に関わる内容が設けられた。現行の「運動やスポーツの学び方」は第2学年に移された。</p> <p>《変更》 現行の「運動やスポーツが心身に及ぼす効果」と「運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果」が統合され、「運動やスポーツが心身や社会性の発達に及ぼす効果」と</p>
---	---	---

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>高める効果が期待できること。</p> <p>(1) ウ 運動やスポーツには、特有の技術や戦術があり、その学び方には一定の方法があること。</p> <p>(2) ウ 運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があること。</p> <p>（新設）</p> <p>（新設）</p> <p>〔体育分野 第3学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、知識や技能を高め、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。</p> <p>（新設）</p> <p>(3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。</p> <p>2 内 容</p> <p>A 体づくり運動</p>	<p>(イ) 運動やスポーツには、特有の技術があり、その学び方には、<u>運動の課題を合理的に解決するための一定の方法があること。</u></p> <p>(ウ) 運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があること。</p> <p>イ 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。</p> <p>ウ 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組むこと。</p> <p>〔体育分野 第3学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、<u>運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</u></p> <p>(2) 運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、<u>一人一人の違いを大切にしようとする</u>などの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。</p> <p>2 内 容</p> <p>A 体づくり運動</p>	<p>して示された。</p> <p>《変更》</p> <p>「運動やスポーツの学び方」の内容は、第1学年から第2学年に移された。</p> <p>《変更・新設》</p> <p>第1学年及び第2学年と同様に、第3学年の体育分野の目標と内容の示し方についても、現行の「技能」「態度」「知識、思考・判断」から変更され、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3本柱で具体的に示された。</p>

(新設)

(1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする。

(3) 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

ア 体ほぐしの運動では、心と体は互いに影響し変化することに気付き、体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うこと。

イ 体力を高める運動では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むこと。

(3) 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(再掲)

(2) 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、体力の違いに配慮しようとする事、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

## B 器械運動

(新設)

(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技で演技することができるようにする。

(3) 技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むこと。

ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わり合うこと。

イ 実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むこと。

(2) 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

(3) 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする事、話合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保すること。

## B 器械運動

器械運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技すること。

《変更》

現行の「体の調子を整え」「仲間と交流する」「律動的な運動」は削除され、新たに「心身の状態」「仲間と自主的に関わり合う」が示された。

《変更》

現行の「体力を高める運動」は、「実生活に生かす運動の計画」に変更された。

《変更》

現行の「課題に応じた」が「自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて」に変更され、新たに「自己や仲間の考えたことを他者に伝えること」が示された。

《変更》

現行の「自己の責任を果たそうとすること」が「互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする事、話合いに貢献しようとする事」に変更された。

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること。</p> <p>イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること。</p> <p>ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること。</p> <p>エ 跳び箱運動では、繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと。</p> <p>(3) 技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。（再掲）</p> <p>(2) 器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする事、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p> <p>C 陸上競技 （新設）</p> <p>(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。</p> <p>(3) 技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。</p> <p>ア 短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにするなどして速く走ること、長距離走では、自己に</p>	<p>ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。</p> <p>イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。</p> <p>ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。</p> <p>エ 跳び箱運動では、繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと。</p> <p>(2) 技などの自己や仲間の課題を発見し、<u>合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</u></p> <p>(3) 器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする事、<u>互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事</u>などや、健康・安全を確保すること。</p> <p>C 陸上競技 陸上競技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。</p> <p>ア 短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることや<u>バトンの受渡しで次走者のス</u></p>	<p>《変更》 現行の「課題に応じた」が「技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて」に変更され、新たに「自己の考えたことを他者に伝えること」が示された。 《変更》 現行の「自己の責任を果たそうとすること」が「互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事」に変更された。  《追記》</p>

適したペースを維持して走ること、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すこと。

イ 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切り滑らかな空間動作で跳ぶこと。

(3) 技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(再掲)

(2) 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

## D 水 泳

(新設)

(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、効率的に泳ぐことができるようにする。

(3) 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

ア クロールでは、手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。

イ 平泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。

ウ 背泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐこと。

エ バタフライでは、手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐこと。

ピードを十分高めること、長距離走では、自己に適したペースを維持して走ること、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すこと。

イ 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切り滑らかな空間動作で跳ぶこと。

(2) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。

(3) 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、健康・安全を確保すること。

## D 水 泳

水泳について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐこと。

ア クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。

イ 平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。

ウ 背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐこと。

エ バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐこと。

バトンパスの技能が新たに示された。

### 《変更》

現行の「課題に応じた」が「動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて」に変更され、新たに「自己の考えたことを他者に伝えること」が示された。

### 《変更》

「一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事」という共生の視点が示された。

### 《変更》

現行のア～エの「手と足」が「手と足の動き」に変更された。

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>オ 複数の泳法で泳ぐこと，又はリレーをすること。</p> <p>(3) 技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解し，自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。（再掲）</p> <p>(2) 水泳に自主的に取り組むとともに，勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとする事，自己の責任を果たそうとすることなどや，水泳の事故防止に関する心得など健康・安全を確保することができるようにする。</p> <p>E 球 技 （新設）</p> <p>(1) 次の運動について，勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。</p> <p>(3) 技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解し，自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。</p> <p>ア ゴール型では，安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開すること。</p> <p>イ ネット型では，役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。</p> <p>ウ ベースボール型では，安定したバット操作と走塁での攻撃，ボール操作，連携した守備などによって攻防を展開すること。</p> <p>(3) 技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解し，自己の課題に応じた運動の取り組み方を</p>	<p>オ 複数の泳法で泳ぐこと，又はリレーをすること。</p> <p>(2) <u>泳法などの自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己の考えたことを他者に伝えること。</u></p> <p>(3) 水泳に自主的に取り組むとともに，勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとする事，自己の責任を果たそうとすること，<u>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事</u>などや，水泳の事故防止に関する心得を<u>遵守する</u>など健康・安全を確保すること。</p> <p>E 球 技</p> <p>球技について，次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) 次の運動について，勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解するとともに，作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>ア ゴール型では，安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。</p> <p>イ ネット型では，役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。</p> <p>ウ ベースボール型では，安定したバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。</p> <p>(2) <u>攻防などの自己やチームの課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己</u></p>	<p>《変更》</p> <p>現行の「課題に応じた」が「泳法などの自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて」に変更され，新たに「自己の考えたことを他者に伝えること」が示された。</p> <p>《変更》</p> <p>「一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事」という共生の視点が示された。</p> <p>《変更》</p> <p>現行の「課題に応じた」が「攻防などの自己やチームの課題を発見し，合理的な解決に向けて」に変</p>



工夫できるようにする。(再掲)

- (2) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

## F 武道 (新設)

- (1) 次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を身に付けることができるようにする。  
(3) 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

ア 柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技、得意技や連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防を展開すること。

イ 剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開すること。

ウ 相撲では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手を崩し、投げたりひねったりするなどの攻防を展開すること。

- (3) 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(再掲)

- (2) 武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保する

や仲間の考えたことを他者に伝えること。

- (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。

## F 武道

武道について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開すること。

ア 柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすること。

イ 剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防をすること。

ウ 相撲では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手を崩し、投げたりいなしたりするなどの攻防をすること。

- (2) 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。

- (3) 武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題

更され、新たに「自己や仲間の考えたことを他者に伝えること」が示された。

《変更》

現行の「自己の責任を果たそうとすること」が「一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすること」に変更された。

《変更》

「基本動作や基本となる技を用いて攻防」をすることが明記され、現行の「得意技」は削除された。

《変更》

現行の「課題に応じた」が「攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて」に変更され、新たに「自己の考えたことを他者に伝えること」が示された。

《変更》

「一人一人の違いに応じた課題や挑

現 行（平成２０年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成２９年告示）	備 考
<p>ことができるようにする。</p> <p>G ダンス （新設）</p> <p>(1) 次の運動について、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを深めた表現や踊りを通した交流や発表ができるようにする。</p> <p>(3) ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、体力の高め方、交流や発表の仕方などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。</p> <p>ア 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化をつけて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ること。</p> <p>イ フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊ること。</p> <p>ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ること。</p> <p>(3) ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、体力の高め方、交流や発表の仕方などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。（再掲）</p> <p>(2) ダンスに自主的に取り組むとともに、互いの違いやよさを認め合おうとすること、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。</p> <p>G ダンス ダンスについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) 次の運動について、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、<u>運動観察の方法</u>、体力の高め方などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通した交流や発表をすること。</p> <p>ア 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ること。</p> <p>イ フォークダンスでは、<u>日本の民踊や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊ること。</u></p> <p>ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ること。</p> <p>(2) <u>表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</u></p> <p>(3) ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、<u>作品や発表などの話合いに貢献しようとする</u>こと、<u>一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとする</u>ことなどや、健康・安全を確保す</p>	<p>戦を大切にしようとする」という共生の視点が示された。</p> <p>《追記》 「日本の民謡や外国の踊り」が新たに示された。</p> <p>《変更》 現行の「課題に応じた」が「表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて」に変更され、新たに「自己や仲間の考えたことを他者に伝えること」が示された。</p> <p>《変更》 現行の「自己の責任を果たそうとすること」が「作品や発表などの話合いに貢献しようとする」こと、一人一人の違いに応じた表現や役</p>

H 体育理論  
(新設)

(1) 文化としてのスポーツの意義について理解できるようにする。

ア スポーツは文化的な生活を営み、よりよく生きていくために重要であること。

イ オリンピックや国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること。

ウ スポーツは、民族や国、人種や性、障害の違いなどを超えて人々を結び付けていること。

(新設)

(新設)

[内容の取扱い]

(1) 内容の各領域については、次のとおり取り扱うものとする。

ア 第1学年及び第2学年においては、「A体づくり運動」から「H体育理論」までについては、すべての生徒に履修させること。その際、「A体づくり運動」及び「H体育理論」については、2学年にわたって履修させること。

イ 第3学年においては「A体づくり運動」及び「H体育理論」については、すべての生徒に履修させること。「B器械運動」、「C陸上競技」、「D水泳」及び「Gダンス」

ること。

H 体育理論

(1) 文化としてのスポーツの意義について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 文化としてのスポーツの意義について理解すること。

(ア) スポーツは、文化的な生活を営みよりよく生きていくために重要であること。

(イ) オリンピックやパラリンピック及び国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること。

(ウ) スポーツは、民族や国、人種や性、障害の違いなどを超えて人々を結び付けていること。

イ 文化としてのスポーツの意義について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。

ウ 文化としてのスポーツの意義についての学習に自主的に取り組むこと。

[内容の取扱い]

(1) 内容の各領域については、次のとおり取り扱うものとする。

ア 第1学年及び第2学年においては、「A体づくり運動」から「H体育理論」までについては、全ての生徒に履修させること。その際、「A体づくり運動」及び「H体育理論」については、2学年間にわたって履修させること。

イ 第3学年においては、「A体づくり運動」及び「H体育理論」については、全ての生徒に履修させること。「B器械運動」、「C陸上競技」、「D水泳」及び「Gダンス」

割を大切にしようとする事」に変更された。

《追記》

「パラリンピック」についても取り扱うことが明記された。

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>についてはこれらの中から一以上を、「E球技」及び「F武道」についてはこれらの中から一以上をそれぞれ選択して履修できるようにすること。</p> <p>(2) 内容の「A体づくり運動」から「H体育理論」までに示す事項については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア 「A体づくり運動」の(1)のアの運動については、「B器械運動」から「Gダンス」までにおいても関連を図って指導することができるとともに、心の健康など保健分野との関連を図ること。また、「A体づくり運動」の(1)のイの運動については、第1学年及び第2学年においては、動きを持続する能力を高めるための運動に重点を置いて指導することができるが、調和のとれた体力を高めることに留意すること。第3学年においては、日常的に取り組める運動例を取り上げるなど指導方法の工夫を図ること。</p> <p>イ 「B器械運動」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからエまでの中からアを含む二を選択して履修できるようにすること。第3学年においては、アからエまでの中から選択して履修できるようにすること。</p> <p>ウ 「C陸上競技」の(1)の運動については、ア及びイに示すそれぞれの運動の中から選択して履修できるようにすること</p> <p>エ 「D水泳」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからエまでの中からア又はイのいずれかを含む二を選択して履修できるようにすること。第3学年においては、アからオまでの中から選択して履修できるようにすること。また、泳法との関連において水中からのスタート及びターンを取り上げ</p>	<p>についてはいずれかから一以上を、「E球技」及び「F武道」についてはいずれか一以上をそれぞれ選択して履修できるようにすること。</p> <p>(2) 内容の「A体づくり運動」から「H体育理論」までに示す事項については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア 「A体づくり運動」の(1)のアの運動については、「B器械運動」から「Gダンス」までにおいても関連を図って指導することができるとともに、心の健康など保健分野との関連を図って指導すること。また、「A体づくり運動」の(1)のイの運動については、第1学年及び第2学年においては、動きを持続する能力を高めるための運動に重点を置いて指導することができるが、調和のとれた体力を高めることに留意すること。<u>その際、音楽に合わせて運動をするなどの工夫を図ること。</u>第3学年においては、日常的に取り組める運動例を取り上げるなど指導方法の工夫を図ること。</p> <p>イ 「B器械運動」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからエまでの中からアを含む二を選択して履修できるようにすること。第3学年においては、アからエまでの中から選択して履修できるようにすること。</p> <p>ウ 「C陸上競技」の(1)の運動については、ア及びイに示すそれぞれの運動の中から選択して履修できるようにすること。</p> <p>エ 「D水泳」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからエまでの中からア又はイのいずれかを含む二を選択して履修できるようにすること。第3学年においては、アからオまでの中から選択して履修できるようにすること。<u>なお、学校や地域の実態に応じて、安全を確保するための泳ぎを加えて</u></p>	<p>《追記》 体づくり運動の「体の動きを高める運動」では、「音楽に合わせて運動する」ことが示された。</p> <p>《追記》 「安全を確保するための泳ぎ」を指導することが示された。</p>

ること。なお、水泳の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことができるが、水泳の事故防止に関する心得については、必ず取り上げること。また、保健分野の応急手当との関連を図ること。

オ 「E球技」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからウまでをすべての生徒に履修させること。第3学年においては、アからウまでの中から二を選択して履修できるようにすること。また、アについては、バスケットボール、ハンドボール、サッカーの中から、イについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。なお、ウの実施に当たり、十分な広さの運動場の確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うこと。

カ 「F武道」の(1)の運動については、アからウまでの中から一を選択して履修できるようにすること。なお、地域や学校の実態に応じて、なぎなたなどのその他の武道についても履修させることができること。また、武道場などの確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うとともに、学習段階や個人差を踏まえ、段階的な指導を行うなど安全の確保に十分留意すること。

キ 「Gダンス」の(1)の運動については、アからウま

履修させることができること。また泳法との関連において水中からのスタート及びターンを取り上げること。なお、水泳の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことができるが、水泳の事故防止に関する心得については、必ず取り上げること。また、保健分野の応急手当との関連を図ること。

オ 「E球技」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからウまでを全ての生徒に履修させること。第3学年においては、アからウまでの中から二を選択して履修できるようにすること。また、アについては、バスケットボール、ハンドボール、サッカーの中から、イについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、学校や地域の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。なお、ウの実施に当たり、十分な広さの運動場の確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うこと。

カ 「F武道」については、柔道、剣道、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などを通して、我が国固有の伝統と文化により一層触れることができるようにすること。また、(1)の運動については、アからウまでの中から一を選択して履修できるようにすること。なお、学校や地域の実態に応じて、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などについても履修させることができること。また、武道場などの確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うとともに、学習段階や個人差を踏まえ、段階的な指導を行うなど安全を十分に確保すること。

キ 「Gダンス」の(1)の運動については、アからウま

《変更》

取り扱うことができる武道の種目が明記された。

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>での中から選択して履修できるようにすること。なお、地域や学校の実態に応じて、その他のダンスについても履修させることができること。</p> <p>ク 第1学年及び第2学年の内容の「H体育理論」については、(1)は第1学年、(2)は第2学年で取り上げることを。</p> <p>(3) 内容の「A体づくり運動」から「Gダンス」までの領域及び運動の選択並びにその指導に当たっては、地域や学校の実態及び生徒の特性等を考慮するものとする。その際、指導に当たっては、内容の「B器械運動」から「Gダンス」までの領域については、それぞれの運動の特性に触れるために必要な体力を生徒自ら高めるように留意するものとする。</p> <p>(4) 自然とのかかわりの深いスキー、スケートや水辺活動などの指導については、地域や学校の実態に応じて積極的に行うことに留意するものとする。</p> <p>(5) 集合、整頓、列の増減、方向変換などの行動の仕方を身に付け、能率的で安全な集団としての行動ができるようにするための指導については、内容の「A体づくり運動」から「Gダンス」までの領域において適切に行うものとする。</p> <p>〔保健分野〕</p> <p>1 目 標</p> <p>個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。</p> <p>（新設）</p>	<p>での中から選択して履修できるようにすること。なお、学校や地域の実態に応じて、その他のダンスについても履修させることができること。</p> <p>ク 第1学年及び第2学年の内容の「H体育理論」については、(1)は第1学年、(2)は第2学年で取り上げることを。</p> <p>(3) 内容の「A体づくり運動」から「Gダンス」までの領域及び運動の選択並びにその指導に当たっては、学校や地域の実態及び生徒の特性等を考慮するものとする。<u>また、第3学年の領域の選択に当たっては、安全を十分に確保した上で、生徒が自由に選択して履修することができるよう配慮すること。</u>その際、指導に当たっては、内容の「B器械運動」から「Gダンス」までの領域については、それぞれの運動の特性に触れるために必要な体力を生徒自ら高めるように留意するものとする。</p> <p>(4) 自然との関わりの深いスキー、スケートや水辺活動などの指導については、学校や地域の実態に応じて積極的に行うことに留意するものとする。</p> <p>(5) 集合、整頓、列の増減、方向変換などの行動の仕方を身に付け、能率的で安全な集団としての行動ができるようにするための指導については、内容の「A体づくり運動」から「Gダンス」までの領域において適切に行うものとする。</p> <p>〔保健分野〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に</p>	<p>《変更・新設》</p> <p>体育分野と同様に、保健分野の目標も「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3本柱で具体的に示</p>

(新設)

## 2 内 容

(新設)

(4) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。

ア 健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は、主体の要因と環境の要因がかわり合って発生すること。

イ 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。また、食事の量や質の偏り、運動不足、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れは、生活習慣病などの要因となること。

イ 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。また、食事の量や質の偏り、運動不足、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れは、生活習慣病などの要因となること。(再掲)

ウ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。

エ 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによっ

向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

(3) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

## 2 内 容

(1) 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。

(ア) 健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は、主体の要因と環境の要因が関わり合って発生すること。

(イ) 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。

(ウ) 生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病などの多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。

(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。

(オ) 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めるこ

された。

《変更》

現行の「イ生活行動・生活習慣と健康」は「(イ) 生活習慣と健康」と「(ウ) 生活習慣病などの予防」に分割された。

《追記》

「生活習慣病などの予防」が新たな内容として示された。

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>て予防できること。</p> <p>オ 健康の保持増進や疾病の予防には、保健・医療機関を有効に利用することがあること。また、医薬品は、正しく使用すること。</p> <p>カ 個人の健康は、健康を保持増進するための社会の取組と密接なかわりがあること。</p> <p>（新設）</p> <p>（新設）</p> <p>（1）心身の機能の発達と心の健康について理解できるようにする。</p> <p>ア 身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があること。</p> <p>イ 思春期には、内分泌の働きによって生殖にかかわる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。</p> <p>ウ 知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。</p> <p>また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。</p> <p>エ 精神と身体は、相互に影響を与え、かかわっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。</p> <p>（新設）</p>	<p>とによって予防できること。</p> <p>（カ）健康の保持増進や疾病の予防のためには、個人や社会の取組が重要であり、保健・医療機関を有効に利用することが必要であること。また、医薬品は、正しく使用すること。</p> <p>イ 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。</p> <p>（2）心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、<u>ストレスへの対処</u>をすること。</p> <p>（ア）身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があること。</p> <p>（イ）思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。</p> <p>（ウ）知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。</p> <p>（エ）精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。</p> <p>イ 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それ</p>	<p>《変更》</p> <p>現行の「オ保健・医療機関や医薬品の有効利用」と「カ個人の健康を守る社会の取り組み」が統合され、「（カ）健康を守る社会の取組」として示された。</p> <p>《変更》</p> <p>「ストレスへの対処」が技能として示された。</p>



(新設)

(3) 傷害の防止について理解を深めることができるようにする。

ア 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などがかかわって発生すること。

イ 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。

ウ 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。

エ 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、応急手当には、心肺蘇生等があること。

(新設)

(新設)

(2) 健康と環境について理解できるようにする。

ア 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。

イ 飲料水や空気は、健康と密接なかわりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合

らを表現すること。

(3) 傷害の防止について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。

(ア) 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。

(イ) 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。

(ウ) 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。

(エ) 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。

イ 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。

(4) 健康と環境について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康と環境について理解を深めること。

(ア) 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。

(イ) 飲料水や空気は、健康と密接な関わりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適

《変更》

「応急手当」が技能として示された。

《変更》

「心肺蘇生法など」が技能として示された。

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>するよう管理する必要があること。</p> <p>ウ 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。</p> <p>（新設）</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>（1）内容の（1）は第1学年、内容の（2）及び（3）は第2学年、内容の（4）は第3学年で取り扱うものとする。</p> <p>（新設）</p> <p>（7）内容の（4）のイについては、食育の観点も踏まえつつ健康的な生活習慣の形成に結びつくように配慮するとともに、必要に応じて、コンピュータなどの情報機器の使用と健康とのかかわりについて取り扱うことも配慮するものとする。</p> <p>（8）内容の（4）のウについては、心身への急性影響及び依存性について取り扱うこと。また、薬物は、覚せい剤や大麻等を取り扱うものとする</p> <p>（9）内容の（4）のエについては、後天性免疫不全症候群（エイズ）及び性感染症についても取り扱うものとする。</p> <p>（2）内容の（1）のアについては、呼吸器、循環器を中心に取り扱うものとする。</p> <p>（3）内容の（1）のイについては、妊娠や出産が可能となる</p>	<p>合するよう管理する必要があること。</p> <p>（ウ）人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。</p> <p>イ 健康と環境に関する情報から課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>（1）<u>内容の（1）のアの（ア）及び（イ）は第1学年、（1）のアの（ウ）及び（エ）は第2学年、（1）のアの（オ）及び（カ）は第3学年で取り扱うものとし、（1）のイは全ての学年で取り扱うものとする。</u>内容の（2）は第1学年、（3）は第2学年、（4）は第3学年で取り扱うものとする。</p> <p>（2）内容の（1）のアについては、健康の保持増進と疾病の予防に加えて、疾病の回復についても取り扱うものとする。</p> <p>（3）内容の（1）のアの（イ）及び（ウ）については、食育の観点も踏まえつつ健康的な生活習慣の形成に結び付くように配慮するとともに、必要に応じて、コンピュータなどの情報機器の使用と健康との関わりについて取り扱うことにも配慮するものとする。<u>また、がんについても取り扱うものとする。</u></p> <p>（4）内容の（1）のアの（エ）については、心身への急性影響及び依存性について取り扱うこと。また、薬物は、覚醒剤や大麻等を取り扱うものとする。</p> <p>（5）内容の（1）のアの（オ）については、後天性免疫不全症候群（エイズ）及び性感染症についても取り扱うものとする。</p> <p>（6）内容の（2）のアの（ア）については、呼吸器、循環器を中心に取り扱うものとする。</p> <p>（7）内容の（2）のアの（イ）については、妊娠や出産が可</p>	<p>《変更》</p> <p>現行では第3学年の内容であった「健康な生活と疾病の予防」が1～3年までの各学年に振り分けられた。また、現行では第2学年の内容の「健康と環境」が第3学年に移動された。</p> <p>《新設》</p> <p>病気の予防と回復についても扱うことが示された。</p> <p>《追記》</p> <p>「がん」についても取り扱うことが示された。</p>

ような成熟が始まるという観点から、受精・妊娠までを取り扱うものとし、妊娠の経過は取り扱わないものとする。また、身体の機能の成熟とともに、性衝動が生じたり、異性への関心が高まったりすることなどから、異性の尊重、情報への適切な対処や行動の選択が必要となることについて取り扱うものとする。

(4) 内容の(1)のエについては、体育分野の内容の「A体づくり運動」の(1)のアの指導との関連を図って指導するものとする。

(6) 内容の(3)のエについては、包帯法、止血法など傷害時の応急手当も取扱い、実習を行うものとする。また、効果的な指導を行うため、水泳など体育分野の内容との関連を図るものとする。

(5) 内容の(2)については、地域の実態に即して公害と健康との関係を取り扱うことも配慮するものとする。また、生態系については、取り扱わないものとする。

(10) 保健分野の指導に際しては、知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うものとする。

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(新設)

能となるような成熟が始まるという観点から、受精・妊娠を取り扱うものとし、妊娠の経過は取り扱わないものとする。また、身体の機能の成熟とともに、性衝動が生じたり、異性への関心が高まったりすることなどから、異性の尊重、情報への適切な対処や行動の選択が必要となることについて取り扱うものとする。

(8) 内容の(2)のアの(エ)については、体育分野の内容の「A体づくり運動」の(1)のアの指導との関連を図って指導するものとする。

(9) 内容の(3)のアの(エ)については、包帯法、止血法など傷害時の応急手当も取扱い、実習を行うものとする。また、効果的な指導を行うため、水泳など体育分野の内容との関連を図るものとする。

(10) 内容の(4)については、地域の実態に即して公害と健康との関係を取り扱うことにも配慮するものとする。また、生態系については、取り扱わないものとする。

(11) 保健分野の指導に際しては、自他の健康に関心をもてるようにし、健康に関する課題を解決する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うものとする。

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせながら、運動や健康についての自他の課題を発見し、その合理的な解決のための活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができる

《変更》

「自他の健康に関心をもてる」ようにすることが示された。

《新設》

指導計画作成の際の配慮事項として、「資質・能力」「主体的・対話的で深い学び」「体育や保健の見方・考え方」が示された。

現 行（平成20年告示・道徳改訂反映後）	改 訂（平成29年告示）	備 考
<p>(1) 授業時数の配当については、次のとおり扱うこと。</p> <p>ア 保健分野の授業時数は、3学年間で48単位時間程度配当すること。</p> <p>エ 保健分野の授業時数は、3学年間を通して適切に配当し、各学年において効果的な学習が行われるよう考慮して配当すること。</p> <p>イ 体育分野の授業時数は、各学年にわたって適切に配当すること。その際、体育分野の内容の「A体づくり運動」については、各学年で7単位時間以上を、「H体育理論」については、各学年で3単位時間以上を配当すること。</p> <p>ウ 体育分野の内容の「B器械運動」から「Gダンス」までの領域の授業時数は、その内容の習熟を図ることができるよう考慮して配当すること。</p> <p>（新設）</p> <p>(3) 第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、保健体育科の特質に応じて適切な指導をすること。</p> <p>（新設）</p> <p>（新設）</p> <p>（新設）</p>	<p>よう留意すること。</p> <p>(2) 授業時数の配当については、次のとおり扱うこと。</p> <p>ア 保健分野の授業時数は、3学年間で48単位時間程度配当すること。</p> <p>イ 保健分野の授業時数は、3学年間を通じて適切に配当し、各学年において効果的な学習が行われるよう考慮して配当すること。</p> <p>ウ 体育分野の授業時数は、各学年にわたって適切に配当すること。その際、体育分野の内容の「A体づくり運動」については、各学年で7単位時間以上を、「H体育理論」については、各学年で3単位時間以上を配当すること。</p> <p>エ 体育分野の内容の「B器械運動」から「Gダンス」までの領域の授業時数は、それらの内容の習熟を図ることができるよう考慮して配当すること。</p> <p>(3) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。</p> <p>(4) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、保健体育科の特質に応じて適切な指導をすること。</p> <p>2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 体力や技能の程度、性別や障害の有無等に関わらず、運動の多様な楽しみ方を共有することができるよう留意すること。</p> <p>(2) 言語能力を育成する言語活動を重視し、筋道を立てて練習や作戦について話し合う活動や、個人生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通し</p>	<p>《新設》</p> <p>インクルーシブ教育の理念のもと、「困難さに応じた指導」を計画的、組織的に行うことが明記された。</p> <p>《新設》</p> <p>共生教育の視点から、「体力や技能の程度、性別や障害の有無等に関わらず」学習の充実を図ることが示された。</p> <p>《新設》</p>

<p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(2) 第1章総則第1の3に示す学校における体育・健康に関する指導の趣旨を生かし、特別活動、運動部の活動などとの関連を図り、日常生活における体育・健康に関する活動が適切かつ継続的に実践できるよう留意すること。なお、体力の測定については、計画的に実施し、運動の指導及び体力の向上に活用するようにすること。</p> <p>(新設)</p>	<p>て、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、自主的な学習活動の充実を図ること。</p> <p>(3) 第2の内容の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用して、各分野の特質に応じた学習活動を行うよう工夫すること。</p> <p>(4) 体育分野におけるスポーツとの多様な関わり方や保健分野の指導については、具体的な体験を伴う学習の工夫を行うよう留意すること。</p> <p>(5) 生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学校や生徒の実態に応じ、学習内容の習熟の程度に応じた指導、個別指導との連携を踏まえた教師間の協力的な指導などを工夫改善し、個に応じた指導の充実を図られるよう留意すること。</p> <p>(6) 第1章総則の第1の2の(3)に示す学校における体育・健康に関する指導の趣旨を生かし、特別活動、運動部の活動などとの関連を図り、日常生活における体育・健康に関する活動が適切かつ継続的に実践できるよう留意すること。なお、体力の測定については、計画的に実施し、運動の指導及び体力の向上に活用するようにすること。</p> <p>(7) 体育分野と保健分野で示された内容については、相互の関連が図られるよう留意すること。</p>	<p>保健体育科の特質に応じた言語活動の充実について明記された。</p> <p>《新設》</p> <p>保健体育科の特質に応じた ICT の積極的な活用について明記された。</p> <p>《新設》</p> <p>他者、社会、自然・環境等と直接的に関わる体験活動を行うように留意することが示された。</p> <p>《新設》</p> <p>個に応じた指導を充実させることが示された。</p> <p>《新設》</p> <p>体育分野と保健分野の関連を図ることが示された。</p>
--	---	--

## 運動領域、体育分野の「知識及び技能」系統表（その１）

（体づくり運動系は「知識及び運動」、体育理論は「知識」）

	小学校 第１学年及び第２学年	小学校 第３学年及び第４学年	小学校 第５学年及び第６学年	中学校 第１学年及び第２学年	中学校 第３学年
（中学校…体づくり運動系）	○運動遊びの楽しさに触れる ○行い方を知る ○体を動かす心地よさを味わう ○基本的な動きを身に付ける ※体ほぐしの運動遊び ・心と体の変化に気付く ・みんなで関わり合う ※多様な動きをつくる運動遊び ・体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをする	○運動の楽しさや喜びに触れる ○行い方を知る ○体を動かす心地よさを味わう ○基本的な動きを身に付ける ※体ほぐしの運動 ・心と体の変化に気付く ・みんなで関わり合う ※多様な動きをつくる運動 ・体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをする ・それらを組み合わせる	○運動の楽しさや喜びを味わう ○行い方を理解する ○体を動かす心地よさを味わう ○体の動きを高めたりする ※体ほぐしの運動 ・心と体との関係に気付く ・仲間と関わり合う ※体の動きを高める運動 ・ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をする	○体を動かす楽しさや心地よさを味わう ○体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解する ○目的に適した運動を身に付け、組み合わせる ※体ほぐしの運動 ・心と体との関係や心身の状態に気付く ・仲間と積極的に関わり合う ※体の動きを高める運動 ・ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行う ・それらを組み合わせる	○体を動かす楽しさや心地よさを味わう ○運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解する ○目的に適した運動の計画を立て取り組む ※体ほぐしの運動 ・心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付く ・仲間と自主的に関わり合う ※実生活に生かす運動の計画 ・ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組む
器械運動系（中学校…器械運動）	○運動遊びの楽しさに触れる ○行い方を知る ○動きを身に付ける ※固定施設を使った運動遊び ・登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りをする ※マットを使った運動遊び ・いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をする ※鉄棒を使った運動遊び ・支持しての揺れや上がり下り、ぶら下がりがや易しい回転をする ※跳び箱を使った運動遊び ・跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをする	○運動の楽しさや喜びに触れる ○行い方を知る ○技を身に付ける ※マット運動 ・回転系や巧技系の基本的な技をする ※鉄棒運動 ・支持系の基本的な技をする ※跳び箱運動 ・切り返し系や回転系の基本的な技をする	○運動の楽しさや喜びを味わう ○行い方を理解する ○技を身に付ける ※マット運動 ・回転系や巧技系の基本的な技を安定して行う ・発展技を行う ・それらを繰り返したり組み合わせたりする ※鉄棒運動 ・支持系の基本的な技を安定して行う ・発展技を行う ・それらを繰り返したり組み合わせたりする ※跳び箱運動 ・切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行う ・発展技を行う	○技ができる楽しさや喜びを味わう ○器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解する ○技をよりよく行う ※マット運動 ・回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行う ・条件を変えた技や発展技を行う ・それらを組み合わせる ※鉄棒運動 ・支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに行う ・条件を変えた技や発展技を行う ・それらを組み合わせる ※平均台運動 ・体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに行う ・条件を変えた技や発展技を行う ・それらを組み合わせる ※跳び箱運動 ・切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行う ・条件を変えた技や発展技を行う	○技ができる楽しさや喜びを味わう ○技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解する ○自己に適した技で演技する ※マット運動 ・回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行う ・条件を変えた技や発展技を行う ・それらを構成し演技する ※鉄棒運動 ・支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行う ・条件を変えた技や発展技を行う ・それらを構成し演技する ※平均台運動 ・体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行う ・条件を変えた技や発展技を行う ・それらを構成し演技する ※跳び箱運動 ・切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行う ・条件を変えた技や発展技を行う
陸上運動系（中学校…陸上競技）	○運動遊びの楽しさに触れる ○行い方を知る ○動きを身に付ける ※走の運動遊び ・いろいろな方向に走ったり、低い障害物を走り越えたりする ※跳の運動遊び ・前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりする	○運動の楽しさや喜びに触れる ○行い方を知る ○動きを身に付ける ※かけっこ・リレー ・調子よく走ったりバトンの受渡しをしたりする ※小型ハードル走 ・小型ハードルを調子よく走り越える ※幅跳び ・短い助走から踏み切って跳ぶ ※高跳び ・短い助走から踏み切って跳ぶ	○運動の楽しさや喜びを味わう ○行い方を理解する ○技能を身に付ける ※短距離走・リレー ・一定の距離を全力で走る ・滑らかなバトンの受渡しをする ※ハードル走 ・ハードルをリズムカルに走り越える ※走り幅跳び ・リズムカルな助走から踏み切って跳ぶ ※走り高跳び ・リズムカルな助走から踏み切って跳ぶ	○記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わう ○陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解する ○基本的な動きや効率のよい動きを身に付ける ※短距離走・リレー ・滑らかな動きで速く走る ・バトンの受渡しでタイミングを合わせる ※長距離走 ・ペースを守って走る ※ハードル走 ・リズムカルな走りから滑らかにハードルを越す ※走り幅跳び ・スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶ ※走り高跳び ・リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶ	○記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わう ○技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解する ○各種目特有の技能を身に付ける ※短距離走・リレー ・中間走へのつなぎを滑らかにして速く走る ・バトンの受渡しで次走者のスピードを十分高める ※長距離走 ・自己に適したペースを維持して走る ※ハードル走 ・スピードを維持した走りからハードルを低く越す ※走り幅跳び ・スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶ ※走り高跳び ・リズムカルな助走から力強く踏み切り滑らかな空間動作で跳ぶ

# 運動領域、体育分野の「知識及び技能」系統表（その2）

（体づくり運動系は「知識及び運動」、体育理論は「知識」）

	小学校 第1学年及び第2学年	小学校 第3学年及び第4学年	小学校 第5学年及び第6学年	中学校 第1学年及び第2学年	中学校 第3学年
水泳運動系（中学校…水泳）	○運動遊びの楽しさに触れる ○行い方を知る ○動きを身に付ける ※水の中を移動する運動遊び ・水につかって歩いたり走ったりする ※もぐる・浮く運動遊び ・息を止めたり吐いたりしながら、水にもぐったり浮いたりする	○運動の楽しさや喜びに触れる ○行い方を知る ○動きを身に付ける ※浮いて進む運動 ・け伸びや初歩的な泳ぎをする ※もぐる・浮く運動 ・息を止めたり吐いたりしながら、いろいろなもぐり方や浮き方をする	○運動の楽しさや喜びを味わう ○行い方を理解する ○技能を身に付ける ※クロール ・手や足の動きに呼吸を合わせて続けて長く泳ぐ ※平泳ぎ ・手や足の動きに呼吸を合わせて続けて長く泳ぐ ※安全確保につながる運動 ・背浮きや浮き沈みをしながら続けて長く浮く	○記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わう ○水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解する ○泳法を身に付ける ※クロール ・手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぐ ※平泳ぎ ・手と足の動き、呼吸のバランスをとり長く泳ぐ ※背泳ぎ ・手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐ ※バタフライ ・手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐ	○記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わう ○技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解する ○効率的に泳ぐ ※クロール ・手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりする ※平泳ぎ ・手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりする ※背泳ぎ ・手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐ ※バタフライ ・手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐ ※複数の泳法で泳ぐこと、又はリレーをすること
ボール運動系（中学校…球技）	○運動の楽しさや喜びに触れる ○行い方を知る ○易しいゲームをする ※ボールゲーム ・簡単なボール操作と攻めや守りの動きによって、易しいゲームをする ※鬼遊び ・一定の区域で、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどをする	○運動の楽しさや喜びに触れる ○行い方を知る ○易しいゲームをする ※ゴール型ゲーム ・基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをする ※ネット型ゲーム ・基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをする ※ベースボール型ゲーム ・蹴る、打つ、捕る、投げるなどのボール操作と得点をとったり防いだりする動きによって、易しいゲームをする	○運動の楽しさや喜びを味わう ○行い方を理解する ○技能を身に付け、簡易化されたゲームをする ※ゴール型 ・ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをする ※ネット型 ・個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをする ※ベースボール型 ・ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをする	○勝敗を競う楽しさや喜びを味わう ○球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解する ○基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開する ※ゴール型 ・ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をする ※ネット型 ・ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をする ※ベースボール型 ・基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をする	○勝敗を競う楽しさや喜びを味わう ○技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解する ○作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する ※ゴール型 ・安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をする ※ネット型 ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をする ※ベースボール型 ・安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をする
表現運動系（中学校…ダンス）	○運動遊びの楽しさに触れる ○行い方を知る ○題材になりきったりリズムに乗ったりして踊る ※表現遊び ・身近な題材の特徴を捉え、全身で踊る ※リズム遊び ・軽快なリズムに乗って踊る	○運動の楽しさや喜びに触れる ○行い方を知る ○表したい感じを表現したりリズムに乗ったりして踊る ※表現 ・身近な生活などの題材からその主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで踊る ※リズムダンス ・軽快なリズムに乗って全身で踊る	○運動の楽しさや喜びを味わう ○行い方を理解する ○表したい感じを表現したり踊りで交流したりする ※表現 ・いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ったり、簡単なひとまとまりの動きにして踊ったりする ※フォークダンス ・日本の民謡や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて簡単なステップや動きで踊る	○感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わう ○ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などを理解する ○イメージを捉えた表現や踊りを通した交流をする ※創作ダンス ・多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊る ※フォークダンス ・日本の民謡や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊る ※現代的なリズムのダンス ・リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせて、リズムに乗って全身で踊る	○感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わう ○ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解する ○イメージを深めた表現や踊りを通した交流や発表をする ※創作ダンス ・表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方などで変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊る ※フォークダンス ・日本の民謡や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊る ※現代的なリズムのダンス ・リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊る

運動領域、体育分野の「知識及び技能」系統表（その３）

	小学校 第１学年及び第２学年	小学校 第３学年及び第４学年	小学校 第５学年及び第６学年	中学校 第１学年及び第２学年	中学校 第３学年
武 道				<p>○技ができる楽しさや喜びを味わう</p> <p>○武道の特性や成り立ち，伝統的な考え方，技の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解する</p> <p>○基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開する</p> <p>※柔道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて，投げたり抑えたりするなどの簡易な攻防をする</li> </ul> <p>※剣道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて，打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をする</li> </ul> <p>※相撲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて，押したり寄ったりするなどの簡易な攻防をする</li> </ul>	<p>○技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わう</p> <p>○伝統的な考え方，技の名称や見取り稽古の仕方，体力の高め方などを理解する</p> <p>○基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開する</p> <p>※柔道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技，連絡技を用いて，相手を崩して投げたり，抑えたりするなどの攻防をする</li> </ul> <p>※剣道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて，相手の構えを崩し，しかけたり応じたりするなどの攻防をする</li> </ul> <p>※相撲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて，相手を崩し，投げたりしないしたりするなどの攻防をする</li> </ul>
体 育 理 論				<p>○運動やスポーツが多様であることについて理解する</p> <p>※運動やスポーツは，体を動かし健康を維持したりするなどの必要性及び競い合うことや課題を達成することなどの楽しさから生みだされ発展してきたこと</p> <p>※運動やスポーツには，行うこと，見ること，支えること及び知ることなどの多様な関わり方があること</p> <p>※世代や機会に応じて，生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには，自己に適した多様な楽しみ方を見付けたり，工夫したりすることが大切であること</p> <p>○運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解すること。</p> <p>※運動やスポーツは，身体の発達やその機能の維持，体力の向上などの効果や自信の獲得，ストレスの解消などの心理的効果及びルールやマナーについて合意したり，適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できること</p> <p>※運動やスポーツには，特有の技術があり，その学び方には，運動の課題を合理的に解決するための一定の方法があること</p> <p>※運動やスポーツを行う際は，その特性や目的，発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど，健康・安全に留意する必要があること</p>	<p>○文化としてのスポーツの意義について理解する</p> <p>※スポーツは，文化的な生活を営みよりよく生きていくために重要であること</p> <p>※オリンピックやパラリンピック及び国際的なスポーツ大会などは，国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること</p> <p>※スポーツは，民族や国，人種や性，障害の違いなどを超えて人々を結び付けていること</p>

（系統が見やすいよう，中学校の領域の順序を入れ替えている。）



# 運動領域、体育分野の「思考力、判断力、表現力等」系統表

(系統が見やすいよう、中学校の領域の順序を入れ替えている。)

	小学校 第1学年及び第2学年	小学校 第3学年及び第4学年	小学校 第5学年及び第6学年	中学校 第1学年及び第2学年	中学校 第3学年
体づくり運動 (中学校…)	体をほぐしたり多様な動きをつくったりする遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える	自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える	自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える	自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える
器械運動 (中学校…)	器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える	自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える	自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組合せ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える	技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える	技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える
陸上競技 (中学校…)	走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える	自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える	自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える	動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える	動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える
水泳運動系 (中学校…水泳)	水の中を移動したり、もぐったり浮いたりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える	自己の能力に適した課題を見付け、水の中での動きを身に付けるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える	自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える	泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える	泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える
ボール運動系 (中学校…球技)	簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝える	規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝える	ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える
表現運動系 (中学校…ダンス)	身近な題材の特徴を捉えて踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える	自己の能力に適した課題を見付け、題材やリズムの特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える	自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える	表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える	表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える
武道				攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える
体育理論				運動やスポーツが多様であることについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える  運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える	文化としてのスポーツの意義について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える

## 運動領域、体育分野の「学びに向かう力、人間性等」系統表

(系統が見やすいよう、中学校の領域の順序を入れ替えている。)

	小学校 第1学年及び第2学年	小学校 第3学年及び第4学年	小学校 第5学年及び第6学年	中学校 第1学年及び第2学年	中学校 第3学年
体づくり運動 (中学校…)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動遊びに進んで取り組む</li> <li>きまりを守り誰とでも仲よく運動をする</li> <li>場の安全に気を付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に進んで取り組む</li> <li>きまりを守り誰とでも仲よく運動をする</li> <li>友達の考えを認める</li> <li>場や用具の安全に気を付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に積極的に取り組む</li> <li>約束を守り助け合って運動をする</li> <li>仲間の考えや取組を認める</li> <li>場や用具の安全に気を配る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体づくり運動に積極的に取り組む</li> <li>仲間の学習を援助しようとする</li> <li>一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする</li> <li>話合いに参加しようとする</li> <li>健康・安全に気を配る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体づくり運動に自主的に取り組む</li> <li>互いに助け合い教え合おうとする</li> <li>一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする</li> <li>話合いに貢献しようとする</li> <li>健康・安全を確保する</li> </ul>
器械運動 (中学校…)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動遊びに進んで取り組む</li> <li>順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をする</li> <li>場や器械・器具の安全に気を付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に進んで取り組む</li> <li>きまりを守り誰とでも仲よく運動をする</li> <li>友達の考えを認める</li> <li>場や器械・器具の安全に気を付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に積極的に取り組む</li> <li>約束を守り助け合って運動をする</li> <li>仲間の考えや取組を認める</li> <li>場や器械・器具の安全に気を配る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>器械運動に積極的に取り組む</li> <li>よい演技を認めようとする</li> <li>仲間の学習を援助しようとする</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする</li> <li>健康・安全に気を配る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>器械運動に自主的に取り組む</li> <li>よい演技を讀えようとする</li> <li>互いに助け合い教え合おうとする</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする</li> <li>健康・安全を確保する</li> </ul>
陸上競技 (中学校…)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動遊びに進んで取り組む</li> <li>順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をする</li> <li>勝敗を受け入れる</li> <li>場の安全に気を付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に進んで取り組む</li> <li>きまりを守り誰とでも仲よく運動をする</li> <li>勝敗を受け入れる</li> <li>友達の考えを認める</li> <li>場や用具の安全に気を付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に積極的に取り組む</li> <li>約束を守り助け合って運動をする</li> <li>勝敗を受け入れる</li> <li>仲間の考えや取組を認める</li> <li>場や用具の安全に気を配る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技に積極的に取り組む</li> <li>勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする</li> <li>分担した役割を果たそうとする</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする</li> <li>健康・安全に気を配る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技に自主的に取り組む</li> <li>勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする</li> <li>自己の責任を果たそうとする</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする</li> <li>健康・安全を確保する</li> </ul>
水泳運動系 (中学校…水泳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動遊びに進んで取り組む</li> <li>順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をする</li> <li>水遊びの心得を守って安全に気を付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に進んで取り組む</li> <li>きまりを守り誰とでも仲よく運動をする</li> <li>友達の考えを認める</li> <li>水泳運動の心得を守って安全に気を付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に積極的に取り組む</li> <li>約束を守り助け合って運動をする</li> <li>仲間の考えや取組を認める</li> <li>水泳運動の心得を守って安全に気を配る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水泳に積極的に取り組む</li> <li>勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする</li> <li>分担した役割を果たそうとする</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする</li> <li>水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水泳に自主的に取り組む</li> <li>勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする</li> <li>自己の責任を果たそうとする</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする</li> <li>水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保する</li> </ul>
ボール運動系 (中学校…球技)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動遊びに進んで取り組む</li> <li>規則を守り誰とでも仲よく運動をする</li> <li>勝敗を受け入れる</li> <li>場や用具の安全に気を付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に進んで取り組む</li> <li>規則を守り誰とでも仲よく運動をする</li> <li>勝敗を受け入れる</li> <li>友達の考えを認める</li> <li>場や用具の安全に気を付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に積極的に取り組む</li> <li>ルールを守り助け合って運動をする</li> <li>勝敗を受け入れる</li> <li>仲間の考えや取組を認める</li> <li>場や用具の安全に気を配る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>球技に積極的に取り組む</li> <li>フェアなプレイを守ろうとする</li> <li>作戦などについての話合いに参加しようとする</li> <li>一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする</li> <li>仲間の学習を援助しようとする</li> <li>健康・安全に気を配る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>球技に自主的に取り組む</li> <li>フェアなプレイを大切にしようとする</li> <li>作戦などについての話合いに貢献しようとする</li> <li>一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする</li> <li>互いに助け合い教え合おうとする</li> <li>健康・安全を確保する</li> </ul>
表現運動系 (中学校…ダンス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動遊びに進んで取り組む</li> <li>誰とでも仲よく踊る</li> <li>場の安全に気を付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に進んで取り組む</li> <li>誰とでも仲よく踊る</li> <li>友達の動きや考えを認める</li> <li>場の安全に気を付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に積極的に取り組む</li> <li>互いのよさを認め合い助け合って踊る</li> <li>場の安全に気を配る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダンスに積極的に取り組む</li> <li>仲間の学習を援助しようとする</li> <li>交流などの話合いに参加しようとする</li> <li>一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとする</li> <li>健康・安全に気を配る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダンスに自主的に取り組む</li> <li>互いに助け合い教え合おうとする</li> <li>作品や発表などの話合いに貢献しようとする</li> <li>一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとする</li> <li>健康・安全を確保する</li> </ul>
武道				<ul style="list-style-type: none"> <li>武道に積極的に取り組む</li> <li>相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする</li> <li>分担した役割を果たそうとする</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする</li> <li>禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>武道に自主的に取り組む</li> <li>相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする</li> <li>自己の責任を果たそうとする</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする</li> <li>健康・安全を確保する</li> </ul>
体育理論				<ul style="list-style-type: none"> <li>運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化としてのスポーツの意義についての学習に自主的に取り組む</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組む</li> </ul>	

保健領域，保健分野の「知識及び技能」系統表

	小学校 第3学年	小学校 第4学年	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
保健領域（中学校…保健分野）	<p>ア 健康な生活について理解すること。</p> <p>(7) 健康の状態は，主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること</p> <p>(i) 運動，食事，休養及び睡眠の調和のとれた生活と体の清潔</p> <p>(9) 明るさの調節，換気などの生活環境</p>	<p>ア 体の発育・発達について理解すること。</p> <p>(7) 年齢に伴う体の変化と個人差</p> <p>(i) 思春期の体の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体つきの変化</li> <li>・初経，精通など</li> <li>・異性への関心の芽生え</li> </ul> <p>(9) 体をよりよく発育・発達させるための生活</p>	<p>ア 心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに，簡単な対処をすること。</p> <p>(7) 心の発達</p> <p>(i) 心と体との密接な関係</p> <p>(9) 不安や悩みなどへの対処の知識及び技能</p>	<p>ア 病気の予防について理解すること。</p> <p>(7) 病気の起こり方</p> <p>(i) 病原体が主な要因となって起こる病気の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病原体が体に入るのを防ぐこと</li> <li>・病原体に対する体の抵抗力を高めること</li> </ul> <p>(9) 生活習慣病など生活行動が主な要因となつて起こる病気の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な運動，栄養の偏りのない食事をとること</li> <li>・口腔の衛生を保つこと</li> </ul> <p>(エ) 喫煙，飲酒，薬物乱用と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康を損なう原因</li> </ul> <p>(オ) 地域の保健に関わる様々な活動</p>	<p>ア 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。</p> <p>(7) 健康は，主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また，疾病は，主体の要因と環境の要因が関わり合つて発生すること。</p> <p>(i) 年齢，生活環境等に応じた運動，食事，休養及び睡眠の調和のとれた生活</p>	<p>ア 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。</p> <p>(9) 生活習慣病などの予防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動不足，食事の量や質の偏り，休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因</li> <li>・適切な運動，食事，休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践</li> </ul> <p>(エ) 喫煙，飲酒，薬物乱用と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心身に様々な影響</li> <li>・健康を損なう原因</li> <li>・個人の心理状態や人間関係，社会環境が影響</li> </ul>	<p>ア 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。</p> <p>(i) 感染症の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病原体が主な要因</li> <li>・発生源をなくすこと</li> <li>・感染経路を遮断すること</li> <li>・主体の抵抗力を高めること</li> </ul> <p>(9) 健康の保持増進や疾病の予防のための個人や社会の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健・医療機関の有効利用</li> <li>・医薬品の正しい使用</li> </ul>
			<p>ア けがの防止に関する次の事項を理解するとともに，けがなどの簡単な手当をすること。</p> <p>(7) 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となつて起こるけがの防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の危険に気付くこと</li> <li>・的確な判断の下に安全に行動すること</li> <li>・環境を安全に整えること</li> </ul> <p>(i) けがなどの簡単な手当の知識及び技能</p>		<p>ア 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに，ストレスへの対処をすること。</p> <p>(7) 身体機能の発達と個人差</p> <p>(i) 生殖に関わる機能の成熟と適切な行動</p> <p>(9) 精神機能の発達と自己形成</p> <p>(エ) 欲求やストレスの心身への影響と欲求やストレスへの対処の知識及び技能</p>	<p>ア 傷害の防止について理解を深めるとともに，応急手当をすること。</p> <p>(7) 交通事故や自然災害などによる傷害は，人的要因や環境要因などが関わって発生すること。</p> <p>(i) 交通事故などによる傷害の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な行動</li> <li>・環境の改善</li> </ul> <p>(9) 自然災害による傷害の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時と二次災害</li> <li>・災害に備えておくこと</li> <li>・安全に避難すること</li> </ul> <p>(エ) 応急手当</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・傷害の悪化の防止</li> <li>・心肺蘇生法などの応急手当の知識及び技能</li> </ul>	<p>ア 健康と環境について理解を深めること。</p> <p>(7) 身体の適応能力とそれを超えた環境による健康に影響，快適で能率のよい生活を送る環境の範囲</p> <p>(i) 飲料水や空気と健康との関わり，飲料水や空気の衛生的管理</p> <p>(9) 生活によって生じた廃棄物の衛生的な処理</p>

保健領域，保健分野の「思考力，判断力，表現力等」系統表

	小学校 第3学年	小学校 第4学年	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
保健領域 (中学校・保健分野)	イ 健康な生活について課題を見付け，その解決に向けて考え，それを表現すること。	イ 体がよりよく発育・発達するために，課題を見付け，その解決に向けて考え，それを表現すること。	イ 心の健康について，課題を見付け，その解決に向けて思考し判断するとともに，それらを表現すること。	イ 病気を予防するために，課題を見付け，その解決に向けて思考し判断するとともに，それらを表現すること。	イ 健康な生活と疾病の予防について，課題を発見し，その解決に向けて思考し判断するとともに，それらを表現すること。	イ 健康な生活と疾病の予防について，課題を発見し，その解決に向けて思考し判断するとともに，それらを表現すること。	イ 健康な生活と疾病の予防について，課題を発見し，その解決に向けて思考し判断するとともに，それらを表現すること。
			イ けがを防止するために，危険の予測や回避の方法を考え，それらを表現すること。		イ 心身の機能の発達と心の健康について，課題を発見し，その解決に向けて思考し判断するとともに，それらを表現すること。	イ 傷害の防止について，危険の予測やその回避の方法を考え，それらを表現すること。	イ 健康と環境に関する情報から課題を発見し，その解決に向けて思考し判断するとともに，それらを表現すること。